

理 工 学 域	共通	アントレプレナーシップ論* (物質化学類は2年次履修)
	数物科学類	数学物理学基礎演習A、数学物理学基礎演習B、情報・計算科学基礎
	物質化学類	物理化学基礎A、物理化学基礎B、有機化学基礎A、有機化学基礎B 1年次配当の学域GS科目(学域俯瞰科目) 1単位
	機械工学類	微分方程式及び演習、機械工学概論A、機械工学概論B
	フロンティア工学類	微分方程式及び演習、フロンティア工学概論A、フロンティア工学概論B
	電子情報通信学類	微分方程式及び演習、電子情報通信先端テクノロジー概論
	地球社会基盤学類	微分方程式及び演習
	生命理工学類	生命理工学概論A、生命理工学概論B、生物科学概論A、生物科学概論B

\*は、履修登録の上限(CAP制)の対象としない授業科目(p.10を確認)

1年次に履修が可能な専門教育科目

融合学域	1年次配当の科目※
人間社会学域	学域GS科目(学域俯瞰科目、学域データサイエンス応用系科目)のうち1年次配当科目、その他各学類専門基礎科目及び専門科目のうち『学域学類からの案内』に記載の「1年次履修可能な専門教育科目」※ 注)科目詳細は各学類ハンドブック等にて確認ください。
理工学域	1年次配当の科目※

※ 1年次に履修が可能な専門教育科目は、各学類の授業時間割表で確認してください。  
国際基幹教育院Webサイトから専門教育科目の授業時間割表を閲覧できます。  
国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報  
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/学域学類の情報/>

### 3 学域学類からの案内

#### (1) 総合教育部(文系)学生対象

主に、専門教育科目に関する案内です。【 】内は、専門教育科目の卒業要件を記載しています(【必】…必修 【選必】…選択必修 【選】…選択)。共通教育科目の卒業要件及びその他詳細は、『共通教育科目履修案内』で確認してください。

記号の説明

専…専門教育科目

#### 融合学域

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

履修が望ましい科目等

- ・基礎科目及び初習言語科目は、学類の修得すべき単位数及び条件を確認の上、履修してください。スマート創成科学類の卒業要件は、基礎科目8単位です。2年次以降であっても基礎科目を履修できるよう、時間割は可能な範囲で配慮しますが、自身の適性を知るために、少しでも1年次で履修することを勧めます。
- ・1年次配当の専門教育科目は総合教育部(文系及び理系)学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生には、アントレプレナー基礎【必】、イノベーション基礎【必】(学域GS科目)、数理・データサイエンス基礎及び演習【必】(学域GS科目)、デザイン思考【必】(学域GS科目)、デザイ

- ン思考演習【必】（先導学類のみ）の履修を勧めます。
- ・これらの専門教育科目の履修人数を制限する場合があります。
- ・これらの専門教育科目はすべて2年次でも履修できます。

### 人間社会学域

履修にかかる通知などは、アカンサスポータルや掲示板等で通知するので、こまめに確認してください。

#### 学域GS科目〔専門教育科目〕

人間社会学域の「学域GS科目」は、どの学類でも卒業要件として8単位必修（アカデミックスキル及びプレゼン・ディベート論2単位分とデータサイエンス応用系科目2単位以上を含む）としています。各学類ハンドブックに掲載している人間社会学域規程別表第3-1（第6条関係）学域GS科目単位配当表の科目の他、「学域GS俯瞰発展系科目群」、「学域データサイエンス系発展科目群」及び「GS科目発展系科目群」の科目も学域GS科目に含まれますが、具体的な履修可能科目は、掲示及び人間社会学域Webサイトの時間割のページに公表します。2年次からは本格的に各学類の専門教育科目の履修が始まるため、1年次からの履修を推奨します。なお、1年次に履修した学域GS科目は、以下の枠内に記載のとおり、科目の読替えを行います。科目の読替えを行った場合、当該科目の科目区分が変更となり、他の「学域GS科目」の履修が必要となる場合がありますので、その点に注意して履修計画を立ててください。

#### 経済学類移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専基礎統計学、専マクロ経済学Ⅰ、専ミクロ経済学Ⅰ、専経済学史、専日本経済論、専経営学概論、専経済史

経済学類に移行した場合、経済学類の専門基礎科目に読み替えます。

総合教育部文系学生は、学域GS科目の時間割番号「基礎統計学（時間割番号10082）」「マクロ経済学Ⅰ（時間割番号10083）」「ミクロ経済学Ⅰ（時間割番号10084）」「経済学史（時間割番号10085）」「日本経済論（時間割番号10086）」「経営学概論（時間割番号10087）」「経済史（時間割番号10088）」で履修登録してください。

#### 国際学類移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専異文化理解1、専異文化理解2、専国際学入門E、専日本文化E

国際学類に移行した場合、科目区分「学域GS科目」ではなく、科目区分「専門基礎科目」又は「専門必修・選択必修科目」の「専異文化理解1」、「専異文化理解2」、「専国際学入門E」、「専日本文化E」に読み替えます。

総合教育部文系学生は、学域GS科目の時間割番号「異文化理解1（時間割番号10019）」「異文化理解2（時間割番号10020）」「国際学入門E（時間割番号10090）」「日本文化E（時間割番号10091）」で履修登録してください。

#### 地域創造学類以外への移行時に読替えを行う「学域GS科目」

専地域創造学Ⅰ、専地域創造学Ⅱ

移行前に地域創造学類の専門教育科目「地域創造学Ⅰ・Ⅱ」を修得し、他学類へ移行した場合は、「学域GS科目」として読み替えます。

#### 学域GS言語科目〔専門教育科目〕

人間社会学域の「学域GS言語科目」は原則2年次以降の開講ですが、外部検定試験を利用した単位認定や英語による海外研修を利用した単位認定は1年次から手続きすることができます。

#### 公認心理師養成プログラム

心の健康問題に対し、他の関係者とも連携しながら心理に関する支援を行う国家資格である「公認心理師」の養成プログラムを履修できます。詳しくはそれぞれの学類のハンドブックで確認してください。

## 人文学類

### プログラム選択時の選考方法

人文学類では2年次から各プログラムを選択して、プログラム内で提示する「標準的履修モデル」を参考にしながら自分の関心に合わせて専門教育科目を学びます。それぞれのプログラムには、専門教育を円滑に行うために設定された受入可能人数（適正上限数）があり、選択決定を行う際、志望者がその上限を超えた場合には1年次第4クォーターまでに履修した科目のGPA値を用いて選考を行います。なお、休学等のために学類への移行が入学後2年目以降になった場合でも、プログラム選択は入学年度を基準に決定します。その他のプログラム選択のルールの詳細は、毎年行う説明会で説明するので、人文学類への移行を考えている場合は必ず出席してください。

### 履修が望ましい科目等

人文学類では、卒業要件に初習言語科目の単位（1言語8単位以上）を含むため、人文学類を志望する人は、1年次から初習言語科目を履修しておくことを強く勧めます。

- ・**専**人文学序説A・B・C・D【必】
- ・**専**博物館概論A・B【選】（学芸員資格取得を希望する場合）
- ・**専**歴史学入門【選必】（歴史学プログラムを選択する場合）
- ・**専**考古学・文化資源学概説A・B【選必】（考古学・文化資源学プログラムを選択する場合）

**1年次履修可能な専門教育科目** 1年次担当の科目

## 法学類

### 履修が望ましい科目等

法学概論、政治学A・B、民法法入門A・Bは選択必修科目ですが、実際にはほとんどの法学類学生が1年次に履修しています。ここから4単位以上を修得することが法学類の卒業要件であることに加え、これらの科目はいずれも2年次以上の専門教育科目を理解するうえで重要なので1年次での履修を強く推奨します。履修できなかった場合は法学類での着実な学修のためにも2年次以降で履修するようにしてください。

**専**法学概論【選必】、**専**政治学A・B【選必】、**専**民法法入門A・B【選必】、**専**憲法（人権）A・B【選必】、**専** English for Legal Studies【必】

**1年次履修可能な専門教育科目** **専**法曹実務【選】、**専**基礎演習【選】、**専**入門ロースクール【選】

※**専**基礎演習【選】はWebで履修登録ができないため、履修希望の学生は基幹教育学務係に問い合わせてください。

## 経済学類

### 履修が望ましい科目等

1年次担当専門教育科目は、経済学や経営学の入門及び基礎的な科目の一部です。移行の判断や2年次以降の履修計画立案の参考になるはずですが、その意味でこれらの科目の履修は望ましいと考えます。

**1年次履修可能な専門教育科目**

**専**経済数学【選】、**専**基礎統計学【選必】、**専**ミクロ経済学I【選必】、**専**日本経済論【選必】、**専**経営学概論【選必】

## 学校教育学類共同教員養成課程

学校教育学類共同教員養成課程は、教員規模で全国最少でありながら、全国トップレベルの採用率・就職率を誇っています。そして、各教員が専門にかかわらず、教員養成に関心を持ち、実習の指導等も熱心に行っていることが、その実績を支えています。令和4年度から富山大学教育学部学生と一緒に学ぶ共同教員養成課程としてスタートしました。学校教育学類共同教員養成課程学生は、取得する免許状に関係なく1年次より4年間一貫のユニット（1ユニット1学年4～5名、計18ユニット）に所属して様々なユニット活動に取り組みます。学校教育学類共同教員養成課程に移行する学生は2年次よりユニットに編入されます。従来の専修という枠組みに代わり、1年次から4年次までの学生を、希望校種や教員免許状とは関係なく、ランダ

ムに割り振ったユニットという学生集団に属します。各ユニットには複数の担当教員を配置し、担当教員は原則として同一ユニットを継続的に担当します。ユニットによって、指導教員から4年間一貫とした指導を受けられます。1ユニットは16～20名程度です。富山大学にも同様のユニットがあり、富山大学のユニットと交流する活動も行います。

### 履修が望ましい科目等

学校教育学類共同教員養成課程では、小学校教諭第一種免許状に加え、特別支援学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状又は中学校教諭二種免許状の合わせて2校種以上の免許状取得を卒業要件にしているため、1年次から多数の必修科目、選択必修科目を配当しています。

学校教育学類共同教員養成課程に移行することを検討している学生はアドバイジング・ルーム2もしくは国際基幹教育院のWebサイトにある、「学校教育学類共同教員養成課程ハンドブック」で確認してください。

#### 1年次履修可能な専門教育科目

専教職とこれからの教育【必】、専教職と学校【必】、専教育の思想と歴史(西洋)【必】、専教育の思想と歴史(日本)【必】、専特別な支援を要する子どもの理解【必】、専特別支援教育概論【必】、専野外体験活動I【必】、専インクルーシブ教育基礎演習I・II【必】、専国語科基礎A・B【必】、専家庭科基礎A・B【必】  
※【選必】は「学校教育学類共同教員養成課程ハンドブック」で確認してください。

### 地域創造学類

#### 履修が望ましい科目等

「専地域創造学I～III」【必】を推奨します。学類入学者対象に1年次に設定している必修科目は「専地域創造学I～III」のみです。また、学域GS科目のデータサイエンス応用系科目のうち、地域情報分析概論I・II【選必】の履修を推奨します。

1年次履修可能な専門教育科目 専地域創造学I・II・III【必】

### 国際学類

#### プログラム

国際学類では2年次から複数のプログラムに所属して専門教育科目を中心に学び、3年次進級時に各自が学びたいプログラムを1つに絞ります。

#### 履修が望ましい科目等

専国際学入門【選必】、専国際学入門E(10090)【選必】、専日本文化【選必】、専日本文化E(10091)【選必】、専異文化理解1(10019)【選必】、専異文化理解2(10020)【選必】の履修を推奨します。また、外国語検定試験を積極的に受験することを強く推奨します。特に国際政治Eプログラム、国際経済Eプログラム、英語圏研究Eプログラム希望者は、3年次進級時にTOEFL-iBT 72以上、TOEFL-ITP 530以上又はIELTS 5.5以上のスコアを提出する必要があります。英語圏研究プログラム希望者は、3年次進級時にTOEFL-iBT、TOEFL-ITP又はIELTSのスコアを提出する必要があります(英語圏研究プログラム配属にあたってはスコアに基準はありません)。さらに、卒業要件に初習言語科目の単位を含むため、1年次から初習言語科目を履修することを強く勧めます。

1年次履修可能な専門教育科目 1年次配当の科目

[注] 1年次配当の専門教育科目の授業時間割 閲覧先:

国際基幹教育院Webサイト>新入生・在学生の方へ>総合教育部>学域学類の情報  
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/総合教育部/学域学類の情報/>

